

平成28年度 第5回

登録保温保冷基幹技能者講習

# 試 験 問 題

平成29年2月26日

一般社団法人 日本保温保冷工業協会

## A群 四枝択一問題 28問

1. 施工管理の目的である3大管理機能に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
  - ① 品質管理
  - ② 工程管理
  - ③ 労務管理
  - ④ 原価管理
  
2. PDCAサイクルに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
  - ① Pとは、Planを表し、計画を立てることである。
  - ② Dとは、Deliveryを表し、納期を遵守することである。
  - ③ Cとは、Checkを表し、結果をチェック・検証することである。
  - ④ Aとは、Actionを表し、検証に基づいて修正・処置することである。
  
3. 作業手順書の作成手順に沿って述べた次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
  - ① 最初に作業手順書を作成する対象作業を決める。
  - ② 対象作業を、単位作業ごとに分解する。
  - ③ 分解した単位作業の順番どおりに、急所を付ける。
  - ④ 事前評価を行い、危険性の除去・低減対策を検討する。
  
4. 施工管理の機能に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
  - ① 安全管理は、工事現場の整理整頓、安全施設の整備、安全教育の徹底などを行なうことである。
  - ② 労務管理は、労働法規を遵守するため就業規則の制定などを行うことである。
  - ③ 設備保全は、間接的な機能であるため、工事の経済性からは役割は少ない。
  - ④ 環境保全管理は、生活・自然環境の保全に対して厳しい制約がつく。
  
5. 現場で整理保管しておく書類に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
  - ① 労働者名簿
  - ② 作業指示書・安全指示書
  - ③ 変更打合せ議事録
  - ④ 注文書・注文請書

6. 積算に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
- ① 工事原価を積算する場合は、一般管理費等を算入しなければならない。
  - ② 積算とは、設計図書から工事金額を算出することである。
  - ③ 積算する場合は、現場の特性や要求されている条件を考慮することが大切である。
  - ④ 設計図書から積算する場合は、配管やダクトを過不足なく、確実に拾い出すことが大切である。
7. 保温保冷工事の施工に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
- ① ファンコイルへの配管でまとまっている場合の施工は、往管、還管、ドレン管の順で保温筒を取り付ける。
  - ② 防振継手の施工はその伸縮や振動に支障がない保温材・外装材で施工する。
  - ③ 通気管は排水管の分岐点より 50mm 以内の部分のみ施工する。
  - ④ 配管保冷工事を行う場合、保冷材の表面を防湿材で外気と完全に遮断する。
8. 建設業法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
- ① 請負金額が 2, 0 0 0 万円未満の「軽微な建設工事」は、建設業許可が不要である。
  - ② 二つ以上の都道府県に営業所を設けて営業する場合には、国土交通大臣の許可が必要である。
  - ③ 建設業の許可は、営業する職種ごとに取得する必要がある、2 9 業種ある。
  - ④ 建設業許可の有効期限は 5 年間有効で、5 年ごとに更新が必要である。
9. 建設産業における建設投資の推移に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
- ① バブル崩壊直後より、民間の建設投資は減少傾向が続いたが、政府建設投資はしばらくの間、増加傾向が続いた。
  - ② 消費税の導入前後では、民間・政府とも建設投資は大きく増減した。
  - ③ バブル崩壊後、民間の建設投資は減少傾向が続いたが、政府建設投資を下回ることはなかった。
  - ④ 近年の政府建設投資は、平成になってからのピーク時に比べ、半減したといえる。

10. 工程の遅れる原因に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 必要資材の手配遅れ並びにミス
- ② 日中時間（日出、日没時刻等）の変動
- ③ 関連他業種との取り合い調整の不備
- ④ 現場内での収まりや他業種との工程バッティング等、問題解決の未処理

11. 登録基幹技能者に求められる労務・資材管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 現場で得た最新情報をもとに判断をする。
- ② 無駄や無理の無いように作業員・資材を工事に活用するために、元請と必要な情報を共有する。
- ③ 現場で作業に直接関与することから、刻々と変化する現場情報を早期に入手することが可能である。
- ④ 知るべき情報の開示を元請に要求することも必要である。

12. VE 実施手順に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① VE 活動の対象テーマを決め、適切なチームを編成する。
- ② 関連情報を収集し、利用者目線で機能を定義する。
- ③ 価格を下げるため、価値を低くした改善案を作成する。
- ④ 各機能を実現するための現状コストと目標コストと価値を分析する。

13. 安全衛生責任者の役割と職務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 統括安全衛生責任者との連絡
- ② 下請負人との連絡調整
- ③ 混在作業によって生ずる労働災害に係る危険の有無の確認
- ④ 合図、警報、事故現場等の標識、有機溶剤の容器の集積箇所の統一

14. ダクト、チャンバ類への保温保冷施工に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 隠ぺいダクトで、きつ甲金網仕上げの場合、鉋は、1㎡当たり10本程度とする。
- ② ALK付グラスウール保温板24Kをラップ施工する場合、ラップ幅が100mm以上とする
- ③ 給気ダクトの内側に吸音用としてグラスウールを内貼りするが、これは内部の保温を兼ねる。
- ④ 消音内貼り用鉋は、少なくとも16本/㎡程度とする。

15. 地球環境問題に対し、建設現場での取り組みに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 現場周辺環境保全活動の推進
- ② エネルギー監視システム（BEMSなど）の推進
- ③ 建設副産物の不適正処理件数の絶滅
- ④ リニューアル現場におけるフロン回収

16. OJTを進める上での重要ポイントに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 教える内容は指導者の経験により決定する。
- ② 必要とされる能力を明確にする。
- ③ 現有能力を把握する。
- ④ 相手が早く確実に学ぶことができるよう配慮する。

17. 足場に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 高さ2m以上の高所で作業する場合は、作業床を設けなければならない。
- ② 足場の一部解体、変更後の点検は、足場業者が行えば足りる。
- ③ 足場の作業床の幅は、40cm以上としなければならない。
- ④ 床材間の隙間は、3cm以下とする。

18. 登録保温保冷基幹技能者に必要とされる能力に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 十分な経験と熟練した作業能力
- ② 効率的な作業を実施するための管理能力
- ③ 施工計画策定能力
- ④ 予算に応じた原価管理能力

19. 「安全工程打合せ」の内容に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 混在作業による危険の防止
- ② 共用機器類及び共用設備の使用調整
- ③ 危険個所などの周知
- ④ 機械・設備の規模・台数の決定

20. 登録基幹技能者に求められる品質管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① TQMやQMS、その他どれかの手法一つに精通しなければならない。
- ② 顧客の仕様書や図面通りに施工し、要求とおりの成果を提供しなければならない。
- ③ 受注産業であるため、顧客の望む形に合わせて品質管理をしなくてはならない。
- ④ 独自の品質管理手法を確立しなければならない。

21. 作業現場における作業員の適正配置に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 作業員を固定した配置
- ② 法定資格者の配置
- ③ 分解した単位作業の順番どおりに、急所を付ける。
- ④ 実務経験を考慮した配置

22. 実行予算に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 現場での原価管理の基準・目標になる。
- ② 積算段階での見込みや標準的な単価を根拠にする。
- ③ 作業所長とその現場を担当する責任者が入って作成する。
- ④ 常に今後発生する予定原価と実行予算残との差異を把握する。

23. ヒューマンエラーの原因となる人間の特性に関する次の説明文のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 近道・省略行動： 面倒な手順を省いたなどの行動によって起こるエラー
- ② パニック： 驚いた時やあわてた時に陥るエラー
- ③ 単調作業： 単調な反復作業の連続によって意識が低下しておこるエラー
- ④ 集団欠陥： 疲れると自らの意思に反して起こるエラー

24. 発電設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 火力発電は発電量の調整が容易である。
- ② 火力発電は大量の化石燃料を必要とし、環境への影響が問題視される。
- ③ 水力発電は水の流れを利用したクリーンな発電方式である。
- ④ 水力発電は発電設備の設置の際、環境へ与える影響が少ない。

25. 建築物計画時の環境負荷低減に関する次の説明文のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 周辺環境への配慮： 周辺環境の汚染防止等に努めること
- ② 省エネ・省資源化： 建築運用段階の省エネ・省資源に努めること
- ③ 長寿命： 機能的ゆとり確保により、建物の長寿命化に努めること
- ④ エコマテリアル： 地形の改変を最小限にとどめる建築配置に努めること

26. OJT 実践によるリーダーにとってのメリットに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 適材適所の人材活用ができる。
- ② 定期的な休暇の取得ができる。
- ③ きめ細やかな部下管理ができる。
- ④ ゆとりある業務遂行ができる。

27. 特別教育を必要とする業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① タンクの内部等において有機溶剤を取り扱う作業
- ② 吊り上げ荷重 1 t 未満の移動式クレーンの運転
- ③ 酸素欠乏危険作業にかかる業務
- ④ 作業床の高さ 10 m 未満の高所作業車の運転

28. OJT に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- ① 職場で上司が仕事を行う過程で、必要に応じ、一時的に行う教育・指導である。
- ② 仕事を通じて従来からなんらかの形で行われている指導をより充実させるための手段である。
- ③ 企業の発展に貢献する人材育成のためにOJTの積極的な取り組みが望まれている。
- ④ 部下の仕事遂行能力を高める必要があるが、仕事に密着した実践的な指導・教育ができる。



## B群 記述式問題 2問

設問1 今回の講習を受け、登録基幹技能者として重要と思われる役割の中で、あなたが特に重要と考えている役割を一つだけ記入しなさい。

	管理
--	----

設問2 また、あなたは単に職長としてではなく、登録基幹技能者として具体的に現場でどのような行動をしようと考えているか記述しなさい。